

町田市バイオエネルギーセンター運営協議会（第2回）

議事要録

- 日時 2022年6月27日（月）14時00分～16時01分
- 場所 町田市バイオエネルギーセンター 管理棟3階会議室
- 出席 委員：高橋会長（もみじ台）、小林副会長（忠生中央）、  
守屋委員（根岸）、福岡委員（忠生自然）、川畑委員（忠生忠霊地区）、  
新井委員（忠生四丁目）、田中委員（上小山田）、  
小川委員（下小山田）、小宮委員（小泉委員の代理・桜美林台）、  
大谷委員（函師）、林委員（馬駟）、佐藤委員（常盤）、  
秋元委員（鈴木委員の代理・矢部町）、甲野藤委員（清住平）、  
増石委員（小山田桜台自治）
- 欠席 0名（代理出席 2名）
- 事務局 : 野田環境資源部長、徳重循環型施設担当部長  
循環型施設管理課：林課長、田中担当課長、吉池係長、新美係長、湯田係長、  
戸田担当係長、黒須担当係長、鎌田主任、東出主任  
循環型施設整備課：田中（功）課長、古屋担当課長、波戸場担当係長、田中主任、  
環境政策課：塩澤次長、池澤担当課長  
ごみ収集課：田中（道）課長  
事業者：町田ハイトラスト株式会社
- 傍聴者 0名
- 配布資料  
次第
  - 1 開会のあいさつ・新任委員の紹介
  - 2 会長・副会長の選出
  - 3 議題
    - (1) 前回いただいたご意見の回答
    - (2) 運転状況報告
      - ① 2月から5月までの運転状況について
      - ② 火災について（2月21日、6月11日）
    - (3) 組織改正に伴う設置要領の改正について
    - (4) 緊急連絡体制について
    - (5) 愛称募集の経過報告について

## 1 開会のあいさつ・新任委員の紹介

### ○開会の挨拶

野田環境資源部長より挨拶を行った。

### ○新任委員の紹介

新しく就任した矢部町町内会の鈴木委員及び循環型施設担当部長に就任した徳重委員の紹介を行った。

## 2 会長・副会長の選出

会長・副会長の選出に当たり、町田リサイクル文化センター周辺地区連絡会の会長を務めていただいた高橋委員を仮座長に指名した。

委員からの推薦により、高橋委員が会長に、小林委員が副会長に選出された。

## 3 議題

### ○議題（1）前回いただいた御意見の回答

資料1を用い、事務局から第1回運営協議会でいただいたご意見に対する回答の説明をした。

（以下、質疑）

- ・高橋会長 ありがとうございます。それでは、これについて御意見、御質問等ございませんか。もしありましたら、かなり大事な内容も入っていますので、途中でも結構ですから、また御発言をお願いしたいと思います。

### ○議題（2）運転状況報告 ②火災について（2月21日、6月11日）

運転状況報告の①と②の順番を入れ替え、先に②の「火災について」を議題とした。資料3を用い、事務局から2月21日に不燃・粗大ごみピットから発生した火災及び6月11日に破碎物の搬送コンベヤから発生した火災の2件について説明を行った。

（以下、質疑応答）

- ・高橋会長 ありがとうございます。 これについての御質問、御意見等、お願いし

ます。

・小川委員 世の中、数か月ですごく変わったとは思わないんで、リチウム電池だなんだかんだというのは前からあると思うんですよ。それでどういうふうな状況になったか分かりませんが、ここのところで2件も火災があったということは、何がどういうことでなると市のほうは考えているんですか。今まで、そんな新施設になるまでに火事だなんだかんだなんて、数か月の間に2件も火事になったなんて聞いたことがない。新しい施設になって、そしたら途端に2件も火事がある。リチウム電池だなんだかんだってそんなこと数か月で急に増えたというわけじゃないわけですから、何が原因でこんな2か月の間に、2か月か3か月の間に2件もあったなんていうのは、市のほうはどんなふう考えているんですか。

・林課長 御指摘のとおり、リチウムイオン電池というのは急に増えたというわけではなくて、確かに利用が徐々に増えているのは間違いないと思うんですが、昔から大分前から存在はしているものだと思います。

私、古い工場から新しい工場に移ってまいりまして、古い工場で運転しているときにも確かに小っちゃい発火というんですかね、発煙とか発火とかというのは、それが電池なのか電池じゃないものなのかはいろいろだったと思うんですが、実際ありました。

その辺が、何で新しい施設でこの数か月の間に繰り返して起きてしまったのかという点については、事前の火災の予防のための装置がいろいろついてはいて、実際作動もしたということではあったんですが、なかなかそれでうまく防ぎきれなかったものがあって、この後、市と運業者それぞれが顔を合わせまして、どういうことをこの後根本的な対応としてやっていくのがいいのかということ相談する場を設けようということで、今、準備をしているところです。

今のところ、消防からも必ずリチウムだったとか必ずスプレー缶だったとか、はっきりした火災の原因というのは、調査して黒焦げになった物は出てきているんですが、これというふうに明示的なものは断定できないということ言われている中なんです。いずれにしても、それら発火の元になるようなものを何とかして食い止めなきゃいけないと思っております。それについての対応策を今後協議していくところでございます。

・小川委員 今まであったのは、どうして大きくならなかったんですか。火事とか、こ

んな大ごとにならなかったんですか。

- **林課長** 今まで小さいのはその場でほぼ消し止められていたと。今、現在もちょっとした発煙、発火については、それぞれその場所の作業員さんが、もしくは自動の消火装置が作動して消えています。本当に消防さんに出動していただくまでもないような、水をためたたらいにあったかくなった電池をぽちちゃんと入れたりとかということは、作業員さんが日常的に行っていたという作業ではあるんですが。大きく2回火事になってしまったということについては何か要素もあると思いますので、それが今のところは、これによって大きくなってしまったということ、はっきりとした話ではない状況です。

最初の2月のほうの火事の際の説明の中でちょっと触れさせていただいたんですが、高い位置までごみを積み上げてあって、その中へ火が潜ってしまった一番底のほうで燃えていたのでなかなか消せなかったということについては消防からもコメントをいただいたところだったので、2月の火事の後、なるべくそのピットを、毎日ゼロにはできないんですがなるべく少ない位置まで減らして、深いところで燃えていて消火が上からかける水があまり効果が上がらないようなことがないように、それから毎日の作業のときに終了時に散水をして延焼をしないようある程度濡れた状態に置いておくとかということは、2月の火災の後実施しております、ピットのほうではその後今のところは大きな火事は起きていない状況です。

- **小川委員** 何かぐちゃっところやっって、あれが原因なんじゃないですか。あれですごい圧力を、押しつぶしちゃっているんじゃないですか。
- **林課長** 今、小川委員に言われたことというのは、実際、可能性としてはあると思います。電池はエネルギーを蓄えていますので、強い力で押されると火を噴いたり、火を噴くまでいかなくても熱を持ったりということはある得ますので、そういうところも原因としてはあると思います。できるだけ入ってこないようにするというのが一番の対策だと思っている中で、今回有害ごみとしての行政回収をするとか、いろいろできるところを動いているところではあるんですが。
- **高橋会長** なかなかはっきりした原因が分からないということで、あまり小川さんの質問に対して答えになっていないような気もするんですけども。
- **田中委員** これはまた完全に修復すると思うんですけど、多分保険にも入っていないんですけども、損害額って幾らぐらいなのでしょうかね。推定でよろしいんですし

ようけれども、相当な金額だと思うんですけれども、これも税金で全部また修繕するという事なんでしょうか。

- **林課長** 損害額の全容については、今のところまだはっきりしていないところで、恐らく億の単位にはなるのではないかと思うんですが、本当にまだ具体的には分かっておりません。

市としまして入っている建物の火災共済みたいなもの、それから事業者が入っている運営に対する運営ができなくなったときの損害を補償する保険とか、それぞれ役割に応じて加入している保険がございまして、その保険をどうやって適用できるのかできないのかについて、今その火災の状況の中身と保険の適用についての調査を進めているところです。

- **田中委員** はい、分かりました。
- **新井委員** 今の質問に関連するんですけれども、単純なそういう損害だけじゃなくて、ここに書いてある対策として人を増やす、1人を2人にする、自動車の2人を3人にするとかいうことになっているじゃないですか。そうするとその費用が膨らむじゃないですか。そういうことを含めると、かなり大きな金額になるんじゃないかと思うんですよね。そこら辺も含めて、ちょっとこの事故が引き起こした顛末じゃないかなと思うんですけれどもね。そこら辺をちょっと答えてもらいたいと思うんですけれどもね。
- **林課長** 御指摘のとおり、機械が壊れたものを直すというのにそれなりに大きな額がかかるというのと併せまして、人の対応、それから応援してもらおう対応とか、確かに費用はいろんなところでかさんでいます。火災について保険でどこまでをカバーできるかは、今ちょっとまだはっきりしていない中なので、可能な限りもちろん保険を適用してもらいたいとは思っております。

リチウムかそうじゃないかはともかくとして、可燃ごみのピットとか施設における火災というのはうちの工場に限らず、今回応援をしていただいている多摩ニュータウン環境組合さんでも2年ぐらい前にやはり不燃ピットでの火災があったりとか、近所の工場でも多く起きていまして。とにかく今、不燃ごみにいろいろ発火の原因になるものが混入してくるということが、うちに限らずいろんなところでの問題になっているということで、広くこのことについての対応を考えていかなきゃいけないのかなということで、今、東京都さんとかにも相談をさせていただいているような状況ではあ

るんですが。

いろいろかかった費用につきまして、どのように分担していくかについては今のところまだ明確に決まっていないところなんです、それぞれの持分をお互い協議ではっきりさせて負担をしていかなきゃいけないかなというふうに考えております。

- **新井委員** この運営協議会の中で、そういった数字というのは明らかにさせてもらうことはできるんでしょうか。
- **林課長** はい。もちろん皆様に御報告するのは当然のことと考えております。今、まだこの段階で私どもも把握できていないので、これがはっきりするタイミングでは皆様にも御報告したいと思います。
- **新井委員** そうですか。それから、もう一つ、私の個人的な意見ですけれど、この再発防止策がどうも人を増やすということに頼っているような気がして見えるんですけども。もう少し何か、人手をかけない解決の方法というのはないんですか。そういう何かハード面で、もっと新設備でもってチェックするとか、何かできないものかどうか。何か安易に人を増やすということに走っているような気がするんですけども、私個人的にはね。すみません。
- **林課長** 本当に御指摘のとおりで、根本的な対応策として何らかをしていかなきゃいけないというのは今考えて、協議に入るところなんです、今、取りあえずの一段目の対策として、毎日入ってきてしまうものを何とかして水際で食い止めたいと。中に入ると発火してしまうと。

御報告の中に漏れていたというか、いろいろ報告事項があったのであれなんです、3月に収集車においても火災がありました。結局、圧縮する、ぎゅっと押し込むところで何か押されて火が出てしまうとか加熱してしまうとかいうことがあるという部分では、とにかく集め方を、まず塵芥車じゃなくて平ボディのオープンのトラックで集めてくることで、なるべく圧縮せずに発火のリスクを下げていきたいということで集め方を変えると。施設でも、とにかくまず中へ入らないようにするというのが今すぐできる対応として、人手は要るんですが、何とかみんなの協力も得ながら今まず一段目としてできることとして、そういう対応で何とか発火を繰り返さないようにということで動いているところです。

この後、機械は直していかなきゃいけませんし、それから全く同じ形で復旧するかというと事業者との協議になりますが、今回のことを経てどういうふうにしたらよ

り起きにくくなるかという点においては、何らか機械を自動化するとかセンサーを違う形のものにするとかということ、お互い話合いの中でよりよいものにして、リスクをゼロにはできないにしても極力下げていくということはしていかなきゃいけないというふうに認識しておりますので、今お話しいただいたとおり、そのことを肝に銘じて進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

- **甲野藤委員** そもそも、発火した火災の経過というところを拝見しているんですけども、消防119に通報する時間が遅いんじゃないかなと思うんですけども。最初のところは35分で、2回目でもまだ5分かかっている。普通火災検知器が作動したら、それと同時に119には通報するんじゃないのかなというのが、私、今までの経験なんですけれども、その辺はどうなんでしょう。

- **林課長** 本当に御指摘のとおりだと思っております。認識として、通報は並行して発見と同時にやるというのが、ごくごく当たり前のことだというふうに思います。

初回については、一度は火が消せて、その後また煙が出始めて、もう一度今度は放水銃を使って消火活動に入ったというところで、何とかなるという思いが少しあったのかなというふうには思っております。

また、2回目については、とにかくすぐ報告を、消防へ連絡をということで1回目の教訓を得て話していた中ですが、現場は発見して、第一発見が2階のフロアで煙を見て「あ、煙だ」と気づいて、その後ほぼ1分後ぐらいに火災報知器が鳴ったんですが、火災報知器が鳴った位置が下のフロアだったのかな。上で発見したんですが、なぜか下で鳴っているというので、元の発火場所を探すので苦労したみたいで、多少現場が分かって消防へ連絡というところまでの時間がかかっているところはあるかと思うんですが、とにかく今御指摘いただいたように発見と同時に通報というのが原則だと思っておりますので、今後もそのように行動していくように努めたいと思っております。

- **甲野藤委員** さっきの費用の件もありましたし、現場の人はやっぱり自分が何とかできると思っちゃいますから、自分の責任だとかそういったことを軽くしてあげるためにも、通報、火災報知器が鳴ったらすぐに通報するということを徹底していただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

- **川畑委員** 新しく有害ごみとして行政回収するという御提案なんですけれど、私、これだと市民の方分かりづらいと思っているんですよ。むしろ、この小型家電のボックス

スを回収しているわけですね。この中にほとんどこの電池というのは入っているわけだから、むしろこの小型家電を積極的に回収しますと言ったほうが、市民にとっては、私、分かりやすいんじゃないかと思うんですよ。ですから、今、回収ボックスをそれぞれの拠点に置いていますが、実際にこの今している籠の中を見るとちょっとしか入っていないわけですよ。これをむしろ回収ボックスとして定期的に小型家電を回収しますと言ったほうが、市民の方にとっては、私、分かりやすいんじゃないかなと思うんですけれども、そういった検討はされているか。

とにかく市民の方に分かりやすく提示して、市民の方に協力する体制を取らない限り、この細かいものを分解して渡せというのはちょっと難しいと思うんです。だから、そういったことをぜひ検討したほうがいいんじゃないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

- **田中（道）課長** 今、御指摘いただきました小型家電の回収については、今回検討する上でやはり小型家電のほうも同時に回収したほうがいいんじゃないかということで検討は行いました。ただ集積場での収集、平ボディの車を使っての収集ということで、小型家電を回収をするということになりますと集積場のほうに小型家電があふれてしまうおそれがあるのかなということがありまして、今回については電池の収集、回収のほうを先にやらせていただくことになりました。

もちろんこれから先、小型家電の回収というものは外せないものだというふうに認識はしておりますので、今後できるだけ速やかに回収のほうができるようなそういった仕組みをつくっていきたいというふうに考えております。以上です。

- **高橋会長** ありがとうございます。なかなか小型家電、現在は持込みになっていますよね。そうすると、その小型家電のためにわざわざ持ち込むというのが、なかなか心理的な抵抗が大きいんじゃないかと思います。恐らくそれを、ただ個別収集とか資源置場の収集に切り替えても、最初はかなり多く出るかもしれませんけれども、そんなにどンドン山のように出るということじゃないような気もするので、ぜひ積極的に御検討いただきたいと思います。
- **小林副会長** いずれにしても、この問題、やっぱり最終的に解決するには、市民の方々とこちらの受入体制をしっかりとやるということだと思っただけですが、そういう意味で市民に関心を持っていただくためにいろいろな報告をするようではありますが、被害額についてもきっちりと報告したほうがいいと思うんです。関心を持っていただ



くために。恐らく相当な金額がかかるんじゃないかと思うんですよね。保険のは別に  
してですよ。

それと、これは多摩ニュータウンの組合とか戸吹のほうへ搬入するのは、費用負担  
はこちらのほうで当然持っているんですよね。そうですね。どれぐらいかかっている  
んですか。

- **林課長** 多摩ニュータウン環境組合と戸吹の清掃工場、クリーンセンターのほうへ3  
月末まで、前年度の分ですね。持ち込んだ額につきましては、およそ450万円ぐらい  
ということで、広報のほうにも掲載させていただきました。こちらは行政間での費用  
の支払いだったので金額がはっきりしておりましたので、概算額、およそというこ  
とではあるんですが、そのぐらいの費用が発生しております。
- **徳重担当部長** 御提案いただいたとおり、私どももきちんと、現在は改修の費用がど  
のぐらいかというところまでまだ出ておりませんが、この金額がはっきりした  
時点で、市民の皆様それからこの協議会の皆様にはきちんと御報告を差し上げたい  
というふうに考えております。よろしくお願ひ申し上げます。
- **高橋会長** はい。よろしくお願ひします。いずれにしても原因究明が何よりも大事だ  
と思いますので、その点、徹底的にやっていただけることを期待しますので、よろし  
くお願ひします。

## ○議題（2）運転状況報告 ①2月から5月までの運転状況について

資料2を用い、事務局から2月から5月までの運転状況を報告した。

（以下、質疑応答）

- **高橋会長** はい、ありがとうございました。これについての御質問、御意見等ござい  
ませんか。
- **田中委員** 8ページの苦情というところなんですけれども、ちょっとうちの町内会の方  
からも、夜寝るときに7時とか8時に何かドーン、ドーンというような低いような  
低音の音が、と。そっちは聞こえないですよね。どんな音だったんですか。
- **事務局** バーっという一定の、ちょっと自分は声は低いんですけれども、ちょっと高  
い音です。
- **田中委員** ああそう。じゃ、それは違うのかな。夜7時とか8時に、たまにドーン、

ドーンというような杭を打つような音がするんです。じゃ、別の音なんですかね。

- **事務局** もしよろしければ、その方の大体の位置を教えていただければ。あまり住所とか知られたくない方であれば…。
- **田中委員** 音をちょっと再現したような形でちょっと教えてもらえませんか。高い音、低い音。
- **事務局** 高めの音でパーというような…。
- **田中委員** ああ、じゃ、その方は全然違うね。低い音でドーン、ドーンというような音だと言っていました。分かりました。
- **川畑委員** ちょっと確認です。焼却炉のごみ処理計画量と処理実績は分かりました。搬入量はどうなんでしょうか。ちゃんと搬入した分がこの処理実績と一致しているのかどうかということを、ちょっと知りたいんです。
- **事務局** 搬入量イコール焼却量とはならないのです。搬入量からいろいろと資源化する量として外している量もございますので、もし御希望があれば次回の運営協議会のときから、搬入量としては燃やせるごみ、燃やせないごみ、粗大ごみという形で大体の搬入量という形で御報告をするような形にしますが。
- **川畑委員** 聞き方が悪かったかもしれないけれども。何を言っているかというところ、ここを運営するにはかなりトラックが入ったり、いろんなものが伴うわけですね。ですから、ごみの量はちゃんとデータとしてお示しになったほうがいいんじゃないかなと私は思うんです。

今言った可燃ごみとか不燃物だとか、そういったものが月にどれぐらい入ってきて、極端な話を言うと、トラック何台を動かして、ごみ収集車を何台とか、そういったボリュームをやっぱり知りたい。この地域のことなんでね。私はそれはデータとして置いておいてもらったほうがいいんじゃないかなと思いますので、これはちょっと要望としておきたいと思いますが、ちょっと御意見いただければと思います。

- **事務局** 分かりました。ありがとうございます。次回の運営協議会の資料には、運転状況の報告の中でそちらを反映させていただきます。
- **新井委員** 素朴に分からないんですけれども、このバイオガスの効果というのは非常にあるものなんですか。要は、非常に今のコスト的に非常に安上がりに上がっているガス発電の結果になっているのかどうか、知りたいんですが。
- **林課長** バイオガスが安価に動いているのかというお尋ねだったかと思いますが。バイ

オガス化施設につきましては、基本市民の皆様にはごみの出し方を変えずに今までどおり黄色い袋の燃やせるごみとしてお出しいただいたものから、機械で選別をしてガスを取り出すというプロセスになっておりますので、まず市民の皆様への御負担はない形で始めさせていただいているところです。

中の機械につきましても、時折、閉塞、詰まってしまったりして解除をするという作業はありますが、基本は自動で、機械で選別して中へピストンポンプで押し込んでいって、水の量、加水をある程度して湿潤させた状態で発酵槽の中へ入っていきます。発酵槽の中で20日間ぐらいかけてガスが出続けて、最後、出てきたらそれをまた機械で水を絞って、かすとして焼却のほうへ回すというのは、全てのプロセスがおよそ自動で動いておりまして、たまに人手のかからない焼却炉と併せて監視をさせていただいているような設備になっておりますので、それほど費用がかかっているということはないかと思えます。

それに加えましてというのも変なんですけど、電力としてガスで発電して売却しておりますが、熱回収、焼却炉で熱回収して出てきた電気とバイオガスで発電した電気というのは電気にしたら同じ電気なんですけど、国の買取価格、固定買取制度による買取価格が倍以上違いますので、そういう点では電気としては高値で売れているということで、手間はあまりかけずにいいお値段で買い取ってもらえるというのは、国の制度としてこのバイオを普及していこうというところの後押しがあるんだと思うんですが、今のところは順調に稼働しているというふうに見ております。

- **高橋会長** ありがとうございます。ちょっと私のほうから1つお聞きしたいんですけど、先ほどガスタービンのNO<sub>x</sub>がオーバーしたときに薬剤の注入量を増やしたというような話ですけども、その注入量を増やすということ自体は、それは恒久措置として取られるようになったんですか。それとも、NO<sub>x</sub>の状況を見ながら調整するということですか。
- **事務局** あまり吹き過ぎもよろしくないのですが、基本的には多めに吹くような運転でやっていただいております。
- **高橋会長** ああ、そうですか。その結果、オーバーはしていないという御報告だったんですね。
- **新井委員** いいですか。ちょっと余談ですけども。最近、宮城県のほうでバイオガスのことについては何か非常に問題が起きているように聞いていますが、あのよう

件は町田のこのバイオガスではないと言えるんですね。

- **林課長** すみません。私、不勉強で、宮城県の状況につきまして把握していないところなんです。
- **新井委員** 何か本当のことを言ったらバイオガスの設計、処理のことを、本当のことを言ったらこれは詐欺になっちゃうよというようなことを言ったといっていますけれどもね。
- **林課長** すみません、その情報は私もインターネットで見ました。ちょっとつながりませんでした。よそのことなので、あまり私がどうこう言っちゃいけないのかもしれないんですが、地方の都市で行おうとしていたバイオガス化の計画だったみたいで、その生ごみを集めることに対して、予定ではある程度の量が集まる想定で設備を造らせる計画を立てて、それでもう造っちゃったのかな。造ってみたら全然必要なごみが集まってこないということで、何かいろいろ問題になっているというふうに、私もインターネットの情報なので正しくないところ、いろいろあるのかもしれませんが、そういうふうに見聞きしたところです。

町田の場合は、どちらかという先ほど計画処理量に対してちょっと下がっていると。ある意味効率よくガスができるという点で、少ないごみでいっぱいガスが出るのは悪いことじゃないんですが、ただ計画の処理量という点では、基準量を処理できるのがもう一方ではいいことだと思いますので、基本、計画量に沿うように今後調整していけたらと思っていますが、ごみが足りなくて、町田の場合、設備過剰で遊んでいるというようなことはなくて、どちらかという少ないごみで効率よくガスが出ているという点で、宮城の件にはうちの施設は当たらないものだと思います。

- **新井委員** 分かりました。

### ○議題（3）組織改正に伴う設置要領の改正について

資料4を用い、事務局から組織改正に伴う設置要領の改正について説明を行った。

（以下、質疑）

- **高橋会長** ありがとうございます。これは組織改正に伴うもので特に問題はないと思いますが、よろしいですね。…では、了承したいと思います。

#### ○議題（４）緊急連絡体制について

資料５を用い、事務局から緊急連絡体制表について説明を行った。

（以下、質疑応答）

- ・高橋会長 ありがとうございます。これに対して御質問、御意見等ございませんか。

これ、私の意見なんですけれども、ものすごく多いですね。網羅的にすると。それで事故が起こったとき、忙しくて随分大変だろうと思うんですね。これを全部やろうと思ったら。それと事故の度合いによって、必ずしもすぐ連絡しなくてもいい部分も含まれていると思いますので、例えばここに、一番右側のところの特に運営協議会に出ている町内会・自治会、ここら辺を中心にして、例えばLINEか何かを利用して、とにかく事故が発生したときは第一報で入れると。もし周辺の人で連絡してほしいという人があれば、この会長に絶対こだわらずに会長プラスアルファみたいな形でLINE登録を許可してもらって、それで事故の概略の状況、それからもう鎮火したよ、あるいはもう収まったよというふうな第一報を、何かそこら辺をもうちょっと労力をあまり使わずに周知していただけるような方法を考えていただくと、非常にお互いにいいんじゃないかという気がするんですけれどもね。

それから多分そのケースによって違うんで、A、B、Cぐらいに事の重大性に分けてもらって、それぞれAのケース、Bのケース、Cのケースということで連絡先をもう少し増やす、調整するというようなことも必要じゃないかなと思うんですけれども。

いずれにしても、地元にて煙が出ているのに何も知らない、どうなっているんだという人が結構多いんで。やっぱり地元に対する第一報、それから収まったあるいは終結したときの第一報みたいな形で、LINEを活用して流していただくと非常にありがたいですけれども、御検討をお願いしたいと思います。

- ・林課長 委員の皆様、メール、よろしいか、よろしくないか、いろいろ個人の状況もあると思うので、皆様がなるべく使いやすい方法で。LINEが手軽でみんな使っているよということであれば、そういう方法ももちろん一つにあるかと思いますが、なるべく皆様が便利に使われていて、すぐ気づくよというものを使った形で周知できるように調整させていただきたいと思います。
- ・高橋会長 はい。よろしく申し上げます。ちなみに忠生の町内会、自治会連合会でも最近LINEで緊急連絡しようということに、実は切り替えたばかりなんですよね。だ

けどLINEを持っている人がほとんどで全く問題がないというか、みんなスムーズに伝わるというんで喜んでくれていますので、どっちかいうとそのほうがいいのかなという気がしますので、よろしくお願いします。

#### ○議題（5）愛称募集の経過報告について

資料6を用い、事務局から愛称募集の経過報告を行った。

（以下、質疑応答）

- ・高橋会長 子供は将来の大人ですから、本当に小学生の頃からこれをPRしていただくと非常に期待するところは大きいと思いますので、よろしくお願いします。

たしか静岡市のこういうごみ処理施設のところでは、見学に来た小学校の集団の集合写真を撮って、それで壁にその年月を書いて全部貼ってあるんですね。その学校名を書いて。そんなことをずっといろいろやってきて、あそこのごみ処理施設のごみ出し量が非常に減ったのかな。ごみ処理量が非常に減ったんですね。全国でも有名などころなんですよ。やっぱりそういうふうな積み重ねの努力が大切だと思いますので、どうか今後もひとつよろしくお願ひしたいと思います。

皆さんもぜひ何か分かりやすいアイデアがあれば、ぜひ投票していただきたいと思っています。当選するかもしれませんからね。

#### 4 その他

- ・高橋会長 それでは、ほぼ今日の議題としては以上ですけれども、そのほか、特に今日一連でとおして御質問とか御意見とかございませんか。
- ・小川委員 バイオマスの残渣というのは肥料にはならないんですか。
- ・林課長 バイオガス化施設から出てきた残渣、肥料にするというプラントも中にございます。町田の場合、農業も部分的に営まれている方もいますので、施設の設計の段階でアンケートみたいなものを取ってどのぐらい利用が見込めるかということを知ったんですが、なかなか出てくる量に対して利用量がそれほど多くないと。あと食品残渣を発酵させているプラントは、食品が入ってきているのが前提として分かっているんで、まだ肥料に使うのに抵抗がない農家さんが多いんですが、一般の家庭から出る可燃性のごみを機械で選別してバイオガス化施設に入れるので、どうしてもその中に

多少の異物も入っているおそれがあるということから、なかなか肥料に使いたいという方がそれほど多くないということもありまして、そういう中でうちのプラントは、もう一度熱回収施設のほうで助燃材として採用するという方法を選択したところです。

- **小川委員** はい。分かりました。
- **高橋会長** ただ本来は、それが本命だったんですよね。ただアンモニア分が多いだとか、今の処理方法だとプラスチックの包装紙なんかも交ざっちゃうのかな。ということで、非常に難しいということなんですけれども。これは本来ならば一つの将来的な課題ですよ。そこら辺、なかなか難しいとは思いますが、考えていっていただきたいなというところでございます。
- **田中委員** 同じような施設じゃないんですけど、前の田中担当部長とかが八王子の向こうのほうにお住まいなので、八王子バイオマスセンター、臭いがしちゃってしょうがなかったんですけども、そういう問題で田中部長なんかと一緒に近所の町内会だということで、説明会、その当時いろいろ行っていたんですけど。ひどい臭いが完全になくなって、それで今、堆肥の問題が出てきまして。それで、あそこの私も知っている人がいて、今もう1人だけいるんですけど。非常にいいというようなこういう回覧を回してくれないかというようなことで、あそこの所長にお願いされまして、うちのほうは回してみたいですよ。

それで実際に小学校のほうへ。小山田小学校って芝生なんですよ、全部。そういうところで使ってみせてくれないかと。ゴルフ場で実験したら、長い間冬になっても青くなっていて、今度春になると青くなるのが早いというようなことで、私ちょっと校長に言って、向こうの所長さんから「じゃ、運んであげますよ」というようなことで運んでもらって、芝生の肥料としてやって。それで私、今年5袋をもらってみたいですよ。それで3人の人に分けて、「どう、調子」なんて言ったら「何かこれいいみたいだよ」なんて言ってさ。で、うちのも花になんかやったら成長のあれがすごくよくてね。やっぱりそういうのもね、あそこのバイオセンターは小・中学校の給食の残渣だけを集めてやっているんですよ。

だからこっちでもやるとしたら、じゃ堆肥にするんだったら町田市内の小・中学校の残渣だけ集める日なんかを決めて、そのときに入れて。あれは2本あるんだっけかな。その1本だけはそういうので使ってみようかとかね。そうすると何か少しは、今、小川さんが堆肥化なんていうことを言ったんですけど、使えるんじゃないのかなと

いうことだね。

あそこの近くの方は電話して申し込めば、5袋簡単にもらえますから。無料ということですので、興味があったら電話してもらって、もらいに行けばすぐもらえます。住所と電話番号と名前だけは書くようですけど。

- **徳重担当部長** 私、実は前職は営繕担当部長をやらせていただいております、学校の校庭の芝生化工事、大変たくさんやらせていただきました。そういったところもございますので、ぜひ小中学校の給食の残渣を使った堆肥化ということについてはしっかりと研究をさせていただきまして、実現に向けてちょっと努力をさせていただきたいなと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。
- **田中委員** はい。お願ひします。
- **高橋会長** 随分前は臭くてどうしようもなかったけれども、直ったんだ。
- **田中委員** もうきれいに、全然臭いもしない。
- **高橋会長** 臭わなくなった。どうやったんですか。
- **田中委員** 入れ方の順番を間違えちゃった。いろんな脱臭剤だとか、そういうのでやったんだけど、ある大学の教授がいろいろと点検してみたら、入れる順番が違う。その順番を変えてやったら、もう臭わない。
- **高橋会長** そう。今までのトラブルは何だったんだろうかとね。
- **田中委員** これをこう入れて、次はこれをやって、次はこういうふうにという順番が、その大学の先生はそういうのを持っていたんだと。それが、こっちが順番がこういうふうにしてばらばらにずれちゃってやっていたから臭いが出て、後は風圧の関係でね。陽圧と負圧の関係。
- **高橋会長** プラスにしておくでね。ここでもやっていますけれども。ああ、そうですか。いずれにしてもそれはよかったですね。臭いが出なくなっただけでも。
- **田中委員** 何も臭いがない。臭いがすごかったですからね。
- **高橋会長** いずれにしてもよかったですね。ほかに全部を通してございませんか。
- **川畑委員** これは前からのあれになるんですが、やはりごみ減量40%とありますよね。やっぱりごみを、さらにこのコロナでごみが増えたところに、ごみを減らすというのはこれ運動論だと思うんですよ。だから市民の方に、この運動論をどう徹底して御協力いただくかということ、火事は火事として協力いただきたい。このごみ減量についての運動論がちょっと今弱いんじゃないかなと思うので、これを改めてちょっと全



市的に運動論として盛り上げていただければなと思うんですが、そういった検討はどうなっているのか教えてもらえればと思います。

- **高橋会長** これはごみ減量ですよね。ごみ減量については膨大な計画をつくってしまして、ごみ減量審議会というのがその進捗状況を一応チェックするということになっていまして、ずっとやっているんですけども減りませんね。だからどこが悪いのかというと、考えられる方法論としては町田市はもうほとんどあらゆることをやっているんじゃないかと私も思うんですけども、残念ながら効き目がない、あまり。だから私も長い間そのごみ減量審議会の委員をやらせていただいて、もうあまり減らないし、出す知恵もなさそうなんで私も辞めようと思っているくらいで。だけど、なかなかうまくいっている市町村もあるんですよ。ですから、そこら辺いろんな知恵を絞って盛り上げてということだとは思いますが、でも、大変大事なテーマなので、今後、頑張っていかなきゃいけないテーマかなと思いますけれども。

市のほうからございますか、何か。

- **塩澤次長** 今、会長からもお話しいただいたとおりなんですけれども、今、環境審議会のほうで前年度の取組の進捗を確認しているところで、前年比で、確定ではないんですけども前年比で約2%ぐらいの減ということなんですけど、もっともっと減らしていかなきゃいけない目標にはなっているので、川畑委員が言われたところで、他市の状況、町田市がやっていない取組もございますので、もっと運動を強化していきたいというふうに考えております。また、町田市で処理できないごみを他の清掃工場にも火災とは別に受け入れてもらっているという大きな課題がございますので、特にまたその部分も肝に銘じながら取り組んでいきたいというふうに考えております。

- **高橋会長** よろしくお願ひします。それから、ちょっと私のほうからのお願ひなんですけれども、前の連絡会で最後の連絡会ですか、去年の11月に連絡会で緊急対応マニュアルを一遍やりましたよね。この緊急対応マニュアルはそのときざっと説明していただいて、骨格としてはほぼほぼ立派なやつをつくっていただいているなという気はするんですけども、今回のような事故があると、その緊急対応マニュアルどおりにいったのかどうか、そのマニュアルでちょっと不備な点はないのか、そういうのを見直す非常にいい機会だと思うので、ぜひ次回ぐらいにその緊急対応マニュアルの中身をざくっと説明してもらって、今回の例えば事故に当たってそれがきちんと運用されて問題がないのか、あるいは一部問題があったのかというふうなところを振り返ると

ということが非常に大切じゃないかと思しますので、それを次回の議題に加えていただければと思います。

それとともに先ほど事務局から説明がありましたように、苦情処理については非常に丁寧な対応をしていただいていると思います。ただ、この苦情処理についても、苦情処理マニュアルみたいなやつが客観的にあると、もう少し人が替わってもきちんと受け継がれるのかな、あるいは業者の方が対応するにしてもきちんとできるのかなという気もしますので、簡単なものでもいいですから、やはり苦情処理マニュアルで、例えば夜間にさっき言った騒音がするみたいなのが来たときはどうするんだというふうなところも盛り込んでいただいて、簡単なものでもいいですからつくっていただければと思います。その点もお願いしたいと思います。

そのほかなければ、大体時間にもなりましたので、今日のところはこれでいいかなと思います。いいですか。事務局のほうにマイクをお返ししたいと思います。

## **6 閉会**

事務局から次回の開催予定を説明し、徳重担当部長から閉会のあいさつを行った。